

令和7年度(2025年度) 学校評価総括表 【伊丹市立伊丹特別支援学校】

教育目標		豊かな心、たくましく生きる力							
重点目標									
①本校の児童生徒の実態に応じた適切な教育課程の編成を行い、教員の指導力を向上し児童生徒一人ひとりの力を伸ばす(教務部、研究部、自立活動部の連携力の推進)②卒業後の進路や生活を見据え、肢体不自由特別支援学校としての取組の充実と地域への発信の強化③安全で安心な学校づくり(センター機能の充実)④意欲とやりとりの愛情が感じられる職場づくり									
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	適切な実態把握に基づく、自立活動の充実や類型意識したカリキュラムマネジメントの推進	(教務・教育課程) ○これまでの指導・支援の評価や実態把握を踏まえて、POCAサイクルで個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。 (自立活動) ○各種相談や研修を活用して児童生徒の実態把握に努め、自立活動の内容の充実と授業改善をはかる。 ○自立活動のアセスメントシートを作成し、児童生徒の実態に即した支援方法や環境設定の共有をはかる。 (研究) ○各クラスで事例検討を行い、実態把握と支援指導の改善をはかる。 ○全教員が授業を公開し、学び合	○過去の評価やアセスメントチェックリスト等を活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標や手立てを検討し、設定することができる。 ○各種相談を活用して自立活動の内容や授業についてクラスで検討し、児童生徒の実態を把握することができる。 ○個別相談を活用して相談内容を共有することで、自身の知識を広げたり、日々の実践に活用したりすることができる。 ○アセスメントシートを基に支援方法や環境設定についてクラスで共有することができる。 ○事例検討を通して、日々の実践を改善することができる。 ○各公開期間に、授業を見学することができる。	87.37%	(教務・教育課程) ○検討会などで過去の支援計画や指導計画の評価、アセスメントチェックリスト等を参考に、次の目標・手立てを検討することができた。 (自立活動) ○各種相談については、各クラスが均等に受けられるよう割り振りを行って実施した。部内で生徒を推薦することもあった。研修を通して児童生徒の実態把握と自立活動の区分・領域について検討することができた。来年度もさらに自立活動の視点に重点を置いていきたい。 (研究) ○事例検討を行ったことで、子どもの実態について深く知ることができた。来年度も他領域の講師を呼び、カラフルな教育活動を展開していきたい。	(教務・教育課程) ○来年度も継続して取り組んでいく。また、さらに自活部、研究部とともに実態把握についての研修等方向性を確認しながら、個々の実態に応じた教育課程を検討していく。 (自立活動) ○自立活動の区分が分かるようにアセスメントシートを作成し、実態把握や目標設定の際に活用できるよう声をかけていく。 ○各教員が授業を見学した機会が昨年度より、多くなった。来年度も時期などについては調整しつつ継続していきたい。	・教科書がないので先生たちのアイデア勝負になることが多いが、学校はよくやってくれていると思う。 ・家庭ではできないようなこともきめ細やかに指導していただいている。 ・新しい先生も増える中で、しっかりと取り組んでおられる。 ・連絡帳などで、家庭との連携もきめ細やかにされている。	
			(小学校) ○日々の学習の中で様々なICT機器に触れて活動する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、スイッチ等様々なICT機器に触れて活動することができる。 ○日常生活や学習で、iPadやVOCA、ブックマークやスイッチ等を個々に応じて活用することができる。 ○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。	92.11%	○授業や余暇の時間に、読スウィッチや薄型スイッチ、iPadのスイッチコントロールなどICT機器を活用することができた。 ○生徒に応じた機器の設定と検討が概ねできた。 ○生徒の実態に応じて各機器を選択し、適切に取り扱うことができた。	○来年度も引き続き、様々なICT機器に触れる機会を設定したい。 ○来年度も引き続き生徒に応じた機器の設定と検討を行う。	・ICT機器の活用はほとんど進めていただいていたが、子どもたちの実態をしっかりと見ながら、何のために活用するかということを大事にしていってほしい。 ・手作り教材など、有効に活用されている。 ・ICT等の多様な取り組みを積極的に行われ、児童生徒の可能性を引き出してもらえることに賞賛します。	
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。
			(小学校) ○日々の学習や交流学習、校外学習等、様々なICT機器を活用する機会を設定する。 (中学校) ○生徒個々の実態や活動に応じて、適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (高等部) ○個々の実態や活動に応じた適切なICT機器を選択し、活用方法を支援・指導する。 (総務・デジタル化の促進 ICT) ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	○授業で、VOCA、iPad、棒スイッチなど、適切に取り扱うことができる。 ○職員にICT機器についての理解を深めることができる。	90.00%	○教材教員展に視線入力装置やiPadを用いて動かす教材を出展し、ICT機器を知ることができた。しかし、校内にある一部の機器の紹介や、教材出展で電池切れなどの問題があり、十分に理解を深めることはできなかった。	○来年度も引き続き取り組み、将来を見据えた活用方法について主体的に考え、適切に取り扱うようにしていきたい。	○まなびポケットを含む校内で使用するシステムやICT機器を、職員に知らせ、効果的な活用方法について提案してもらった。新しい情報や機器についても併せて発信していきたい。	・小学校までは居住地交流がかなり行われているが、中学校になるとなかなか難しいようなので、中学校で居住地交流を進めていけるように、相手校との打ち合わせ等により受け入れ態勢を整えていただきたい。 ・県の副都府ガイドラインでは、原則として保護者同行となっているが、今後、卒業後のケアが必要な児童・生徒の交流には看護師が同行できるようなシステムを構築していければと思う。

学校関係者評価総括  
・「チーム伊丹特別」の色が、この数年でできたように思う。うまく若手の先生たちが成長されているのも素晴らしい。児童生徒さんの笑顔がいつも印象的である。  
・今後も子供たちのために前向きで熱心な取り組みを続けていってほしい。  
・学校は、個々の児童生徒の実態に応じて指導支援の工夫を行っており、教職員もしっかりと取り組んでいる。プレゼンテーションで子どもたちの写真を見せてもらい、その様子がよく分かった。  
・進路については、在学中からいろいろなことをアピールするスキルを磨くとともに、選択肢の幅を広げて自己決定を尊重してほしい。  
・医療的ケアの体制や通学保障などの課題、福祉、医療、地域などとの連携などは、今後もより良いものを目指し取り組んでいく必要がある。  
・教育だけでなく福祉等の分野など、これまで以上に幅広い分野との連携が必要であると思う。

次年度に向けた重点的な改善点  
・今日、障害福祉分野において「権利擁護」「自己決定」というキーワードが重要視されつつある。特に「判断」等にハンデのある人にとって「YES・NO」の意思表示、自己実現の具現化という行為に難しさがある。しかし、その難しさの中にも彼らなりの意思表示がある。彼らの意思表示を正しく汲み取り、卒業後、社会に出て本人が本人らしい生活を享受できるように在学中から、いろいろなことをアピールするスキルを磨いていきたい。  
・関係機関や地域との連携をさらに深め、情報発信にも努めていきたい。